

写真：藤田養蜂場のはちみつだけを取り扱う「8 bees」（松山三越内）のみかんみつ。
ほかにびわ、れんげ、ののはな、けんぼなしなどがあります。
花の種類によって分けられるのは、ハチ箱が花のすぐ横なので、わざわざ遠くの別の花に行かないため。
ミツバチは40日間の一生の中で、ティースプーン1杯分のみつを集めます。



今月のあじなもの 藤田養蜂場のはちみつ



目次

今月のあじなもの	2
市長・市議会議員選挙、県議会議員補欠選挙	4
平成25年度当初予算	5
犬の登録と狂犬病予防注射	6
新庁舎建設市民ワークショップほか	8
しせいニュース	9
ほっとアングル、すくすくいよっ子	15
くらしインフォメーション	18
まなびランド	20
健康ガイド	22
日常を切り取る	24
子育て支援センターあおぞら	26
イベント情報、カレンダー	27
第2回伊予市トライアスロン大会 in ふたみ	28



◎表紙の紹介

大好きなおじいちゃんにランドセルをかけてもらい、大喜びの久保孝尋くん(下吾川)。4月から校区外通学で翠小学校に入学し、兄の迅輝くんと一緒に車で通学することにワクワクしています。

◎問い合わせ

伊予市役所 ☎982-1111 (代)
〒799-3193 伊予市米湊820番地

中山地域事務所 ☎967-1111 (代)
〒791-3292 伊予市中山町出洲2番耕地138番地1

双海地域事務所 ☎986-1111 (代)
〒799-3292 伊予市双海町上灘甲5821番地6

ファックス ☎983-3681 (代)
ホームページ <http://www.city.iyo.lg.jp>
メール iyo-daihyo@city.iyo.lg.jp

おいしさの秘ミツ



伊豫国あじの郷づくりに協賛している、藤田養蜂場の代表、吾野真史さんは、11年前に会社員から転職し、妻の父が営む養蜂業を継ぎました。「技術はすべて義父から教わりました。厳しいけれど良き相談相手です。ハチが増えなかつたり、花の咲く時期が違つたり、変化する自然にどう対応するか、経験から導き出される感覚はかたがたありません。最初はハチに30力所刺されて熱を出しましたが、それからは刺されたときに痛いだけです」と、吾野さんは笑います。

一番大変なのは、移動とみつ採り。みつが採れるのは2週間程度で、県内各地を移動します。約3万匹のハチが入った箱を40個以上、約1週間かけて夜の間に運びます。みつ採りは、朝4時に起き、ハチをはけではらいながらみつを採って、こし器にかけて、集めて製品にいきます。

はちみつは、12℃以下になつたり、ブドウ糖が多かつたりすると、不純物と結合して結晶しやすくなります。吾野さんは、ハチに花のみつを集めさせる前に、餌の砂糖水が混じつたみつを取り除き、花のみつの純度を高めています。

「はちみつに、花の香りがそのまま、ものすごく出るんですよ。伊予市でびわの花から採るものは、特に香りが濃く、ハチの飛びにくい真冬に採れるので、幻のはちみつと言われています」と話す、吾野さん。

「本当のはちみつ」を提供したいという心がこもった、藤田養蜂場のはちみつで、春を味わってみませんか。

伊豫国「あじの郷」づくり実行委員会では、さまざまな形でご協力いただける協賛企業、団体、お店などを募集しています。詳細は商工観光課内線573にお問い合わせください。



※市内では町家といよっこらで、藤田養蜂場のはちみつが購入できます。(価格や容器は異なります)